

第24回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評 中学生部門

●審査員 A

中学生でありながら、技術的にも音楽的にも完成度の高い演奏が多く充実したアジア大会でした。一音一音に自分の感性を落とし込んで楽器を鳴らし響かせることも出来、近い将来の活躍を感じさせる演奏が多く立派なものでした。技術的なレベルが大変上がっているのと同時に、勢いあまって時として攻撃的な演奏となってしまうので、間の遊びを感じたり、余裕を持ってほしいと思います。揺らぎを表現しようとして不自然な rit. になってしまったり、何事も表現過多にならないようにしましょう。また、メロディーラインだけに集中してしまわず、ハーモニーを感じながら、他の声部との響かせ方(アルペジオなど)のバランスをとって一番美しい音が鳴らせるよう音色をつくっていきましょう。

●審査員 B

もっとアーティキュレーションに気を配りましょう。アーティキュレーションは、強弱やその音の小節の中のどこに位置しているかということと関係があります。また、鍵盤を無理に押し下り叩きつけたりしないように。鍵盤に載せる重さを調整して強弱に変化をつけましょう。自然にまかせているだけでは十分ではありません。指先がいつも腕と繋がっているという感覚を忘れないように。決して肘から弾かないようにしてください。

●審査員 C

どの演奏者の解釈も似通っていて、若いピアニストの個性や感情が乏しく、まるで全員が同じように演奏し、決められた枠に収まるようにしなければならないかのように思えました。もちろん、特にエチュードにおける非常に高い技術的熟練度には驚くべきものがありますが、残念ながら芸術的な演奏を行うためにはこれだけでは不十分です。是非もっと想像力と創造力を働かせ、ロマン派作品に対する知識を深めていってください。

●審査員 D

コロナ禍の中、音楽は確実に私達の生活の中にあるおいを与え、心癒す存在であると感じました。エチュードと自由曲の組み合わせ方を、あらゆる角度から考え、慎重に決めてほしいと思います。自然な演奏で私達審査員を感動させてください。

●審査員 E

どなたも欠席することなくアジア大会が開催されたこと、すばらしいと思いました。皆さんとてもよく弾かれていて、技術的にすばらしく、よく準備されていたと思います。さらにもっと歌と和声の変化が聞こえるといいな、呼吸がもう少し深いといいな、音の響きの最後まで聞けるといいな、と思いながら聞きました。これからが楽しみな中学生のエネルギッシュな演奏を一日楽しませて頂きました。ありがとうございました。

●審査員 F

現在の中学生年齢の方々には、ショパンのエチュードを楽に弾きこなすリトル・ピアニストがたくさんいます。たいへんレベルの高いものでした。一方で、タイの有無や正確なリズムなど、基本的な読譜の疑義も多く見受けられました。ショパンの残した遺産＝「楽譜」に敬意を払い、丁寧に譜読みをしたうえで、自身の能力をめいっぱい発揮していただいて、素晴らしいピアニストを目指していただきたいと思います。